

HTLV -1

25

26 3

		HTLV -1			HTLV -1	
					152	
110	72%		HTLV -1		48,204	
			117	0.24%		
	80%	94/117		Western Blot	34	0.07%
Western Blot		49	0.1%	Western Blot	11	0.02%
	Western Blot			PCR	5	
PCR	20%				HTLV -1	1
0.07%	35/48,204					
	61%				39%	
					49%	
	51%		Western Blot			
		56%		12%	12%	
21%		9%			50	HTLV -1
23					HTLV -1	
					HTLV -1	
		HTLV -1			HTLV -1	
		HTLV -1				HTLV -1
					24	
		HTLV -1				
			HTLV -1		100	
		Western Blot			100	
			HTLV -1			
HTLV -1						
	24	1				
	HTLV -1					

HTLV-1

Web

FAX(052 842 3449

9 1

1) 24 1 1
HTLV-1

24 12 31

PCR

2) HTLV-1

(a,b 1)

- a
- b

3) (a,b 1)

- a
- b

2013 3

<http://htlv-1mc.org/>

4) HTLV-1

(a,b,c,d,e 1)

- a 3
- b
- c
- d 4
- e

表1.

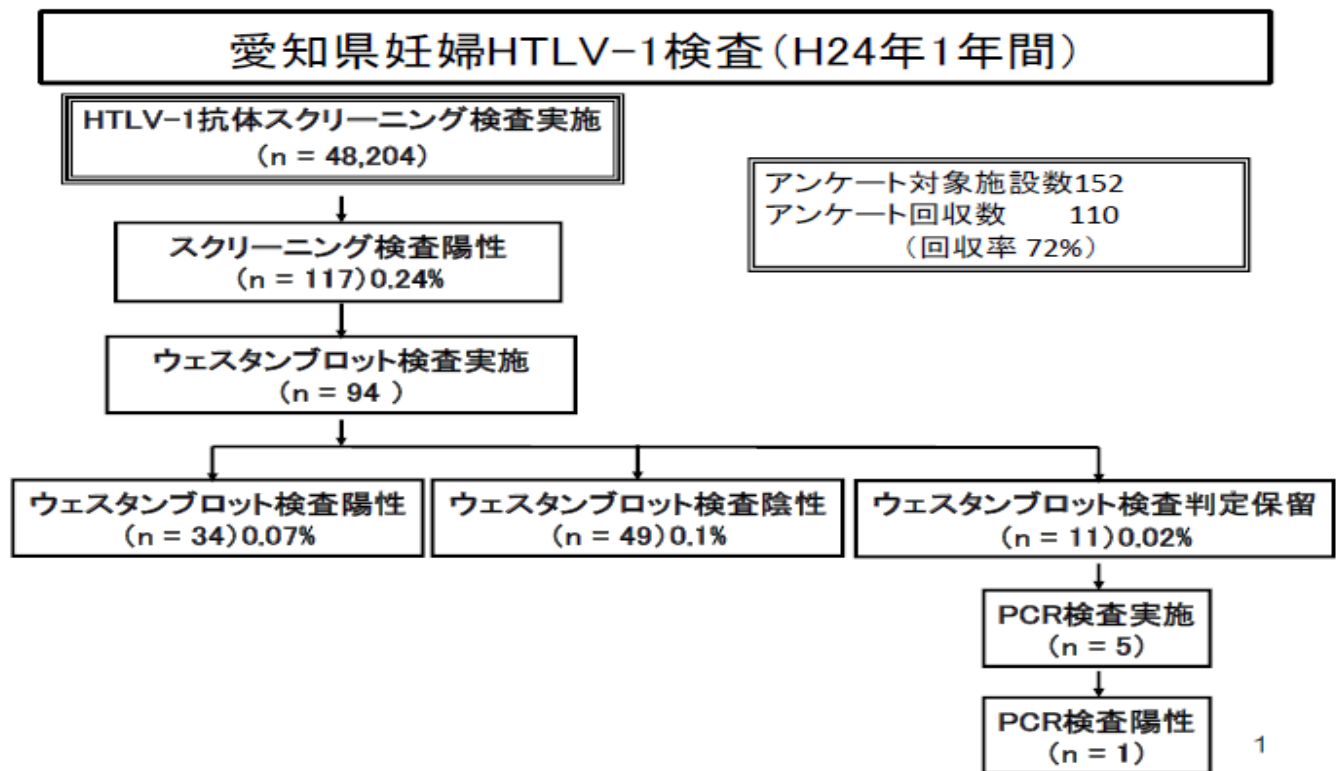


図1.
厚労科研「HTLV-1抗体陽性妊婦から出生した児のコホート研究（板橋班）」の全国登録について

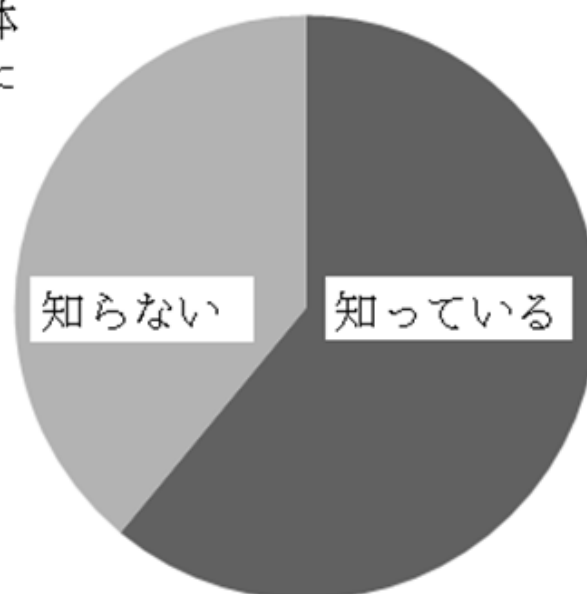


図2.

厚労省研究班における
愛知県の研究協力施設

安城厚生病院

トヨタ記念病院（申請中）

公立陶生病院（申請中）

一宮市立市民病院

名古屋第二赤十字病院

名古屋市立大学病院

豊橋市民病院

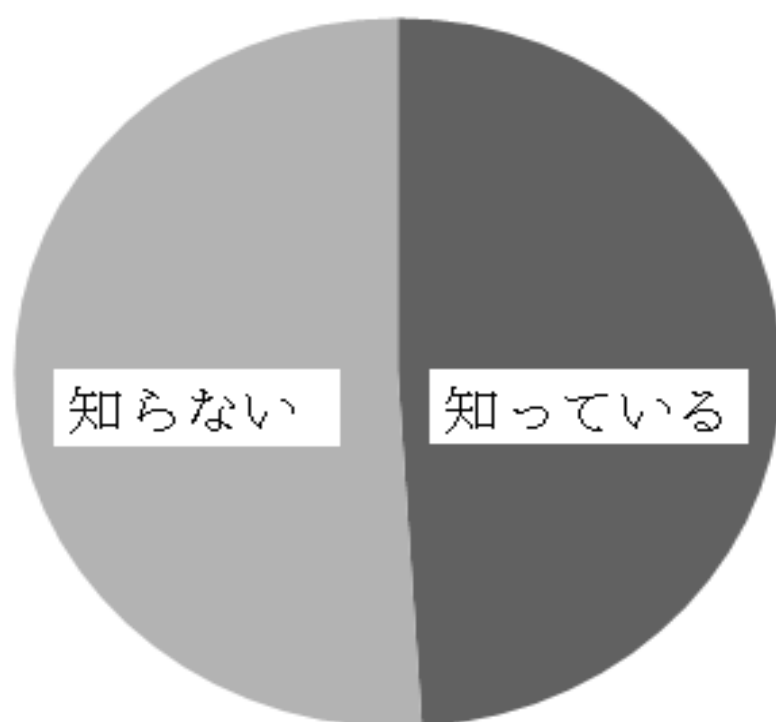
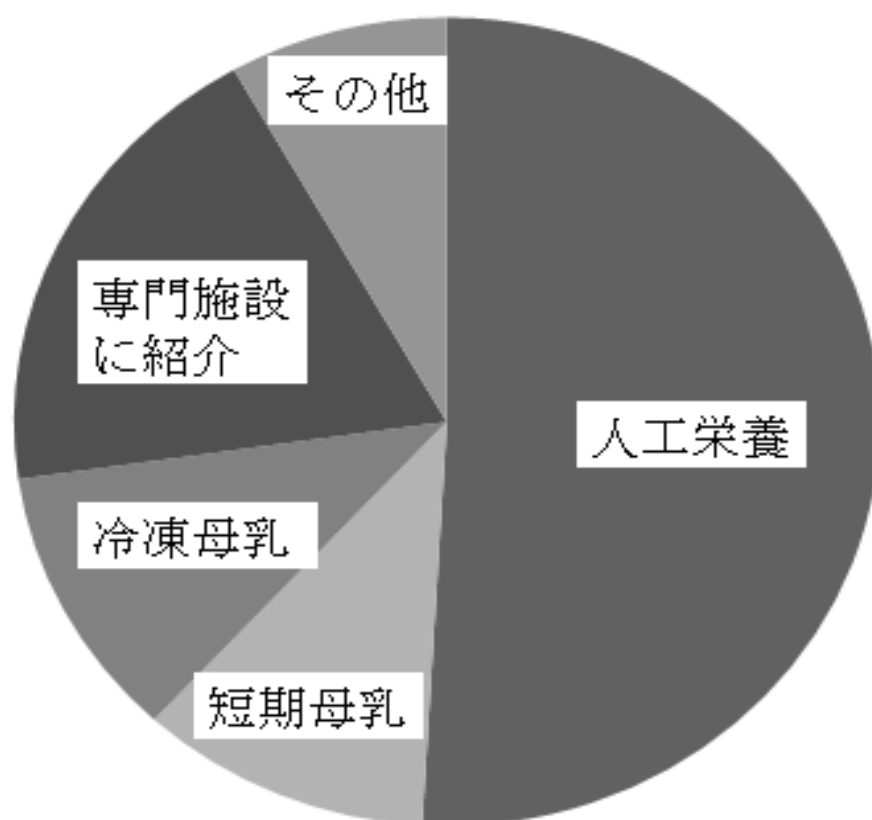


図3.

WB法陽性の場合の
授乳法



HTLV-1母子感染対策を推進するための調査結果

1 回答数

県保健所	12
市町村	50
政令中核市	4
計	66

2 平成23年度1年間及び平成24年4月から9月までにHTLV-1抗体陽性者からの相談状況

(1) 相談箇所別、相談種別の状況 (N=66)

	相談「あり」の施設		相談「あり」の相談種別							
			家庭訪問		電話		面接		計	
	数	率	実	延	実	延	実	延	実	延
県保健所 (12)	4	33.3	3	4	2	2	2	2	7	8
市町村 (50)	3	6.0	1	1	0	0	2	3	3	4
政令中核市 (4)	2	50.0	2	2	5	5	9	9	16	16
計 (66)	9	13.6	6	7	7	7	13	14	26	28

(2) 地区別、相談種別の状況 (N=66)

	相談「あり」の施設		相談「あり」の相談種別							
			家庭訪問		電話		面接		計	
	数	率	実	延	実	延	実	延	実	延
尾張 (44)	7	15.9	3	3	5	5	9	10	17	18
三河 (22)	2	9.1	3	4	2	2	4	4	9	10
計	9	13.6	6	7	7	7	13	14	26	28

(3) 相談内容 (複数回答) N=9

相談内容	施設数	相談内容	施設数
①生まれてくる子どもへの感染	3	⑧検査方法について	2
②上の子どもへの感染	1	⑨専門医療機関について	2
③子ども以外の家族への感染	1	⑩家族会について	0
④生まれてくる子どもの栄養方法	2	⑪感染予防について	2
⑤自身の発病について	3	⑫精神的な問題	1
⑥疾患 (ATL、HAM) について	1	⑬生活指導	1
⑦家族関係について	1	⑭退院後の支援先について	1

⑮その他

○保健所で相談できる内容はどのようなことかの問い合わせ。

○夫から妻へ感染し、その後妊娠したため、母（妻）自身がショックを受けておられた。主に母（妻）の精神的フォローを中心に関わっている。

○経過観察受診のタイミング

○HAMは、特定疾患医療給付の対象となるか。

○養育医療申請や未熟児訪問時の面接にて、母がHTLV-1陽性者であることを聞き、感染や栄養方法の把握をした。それらについて、母は受けとめており、心配や不安がないことを確認した。

(4) 相談を受ける上で困った内容（複数回答） N = 9

内 容	施設数	内 容	施設数
①生まれてくる子どもへの感染に対する相談	1	⑧検査方法についての相談	0
②上の子どもへの感染に対する相談	1	⑨専門医療機関についての相談	1
③子ども以外の家族への感染に対する相談	1	⑩家族会について相談	0
④生まれてくる子どもの栄養方法についての相談	1	⑪感染予防についての相談	1
⑤自身の発病についての相談	1	⑫精神的な問題	1
⑥疾患（ATL、HAM）についての相談	1	⑬生活指導についての相談	0
⑦家族関係についての相談	0	⑭退院後の支援先についての相談	0
		困ったことなし	2

⑮その他

○夫から感染したことで、夫への不信感が募ってしまった。

○産院からは、子どもの栄養方法に対する指導・助言のみで、母自身の健康管理に対する指導はなかったとのことであった。（「普通の生活でよい」とのみ。）経過観察のため、血液内科の受診を勧めたが、専門医が分からず具体的な病院の選択は母に委ねる結果となった。また、母に不安を与えずに言葉を選ぶのに困った。

(5) 医療機関からの連絡の有無（N = 9）

	施設数
あり	2
なし	7

3 相談支援体制について

(1) 感染が分かった妊婦への必要な支援内容（複数回答）N = 66

内 容	施設数	
①妊婦自身が納得して栄養方法を選択するための支援	59	89.4
②選択した栄養方法が確実に実施できるような支援	58	87.9
③自身の発病に関する相談支援	57	86.4
④子どもの感染に関する相談支援	59	89.4
⑤家族への指導・相談支援	55	83.3
⑥専門相談医療機関の整備	60	90.9
特になし	3	4.5

⑧その他

○保健機関での支援については、育児支援が中心であると思われる。

○妊婦や家族が、栄養方法や母自身の健康管理、また、家族との関係性等総合的専門的な相談が継続的に受けられる支援が必要と思います。

○行政と医療機関と役割分担が必要であると思います。

○⑥は市町村の仕事ではないと思います。

○この管内では、陽性者が少ない現状があります。陽性者がいた病院とは日頃から連絡会議があったり連携が取れていますが、連絡がありませんでした。【最終結果陰性だったのかも】

外来看護師さんも主治医にお任せ的な対応なので、しっかりフォローしていくにはきちんとしたシステム化が必要かと思います。その前に、いかに支援していくか保健所と市町保健師間での地域での支援についての検討も必要かと思います。調査結果も参考に周産期関係機関連携会議での議題としてもいいかと思います。

○医師から、必要以上に不安を与えないように病気の正しい知識を伝えることが重要だと思います。

○支援の必要性は感じているが、HTLV-1抗体陽性妊婦・産婦の把握が不十分であり、地域における相談支援の体制は整っていない状況にある。相談従事者の知識及び技術の向上も含めて必要な支援体制を整備していけるとよい。

(2) 母子感染予防及び相談支援体制としてどんなことが必要と思うか。（複数回答）N = 66

内 容	施設数	
①相談窓口の整備	62	93.9
②専門医療機関の明確化	61	92.4
③地域の医療機関と専門医療機関との連携	58	87.9
④医療機関と保健機関の連携	60	90.9
⑤検査体制のマニュアル化	47	71.2
⑥地域における相談支援	50	75.8
⑦保健・医療機関の従事者の知識・支援技術の向上	60	90.9
特になし	1	1.5

⑧その他

○感染者であることの不安や子供へ感染の不安から、育児不安につながる可能性がある。医療機関との連携が重要と考える。

○まずは、専門医療機関の明確化と総合的な専門相談窓口が必要と思います。

○行政と医療機関と役割分担が必要であると思います。

○HTLV-1検査について実施の有無の結果把握のみ。母から相談がある時のみの対応になる。

○発病までの経過が、相談をふくめ見守られるような、かかりつけの地域の医療機関と専門医療機関との連携が必要だと思います。

○医療機関からの妊婦健診の結果報告にて、HTLV-1抗体陽性の有無の記載を明確にし、早期支援に繋がるとよい。

また専門医療機関を明確にし、医療間及び医療と保健の連携を充実させ、情報提供及び相談支援体制を整備していけるとよい。

○検査体制のみでなく、支援体制や支援方法についても一定のマニュアルが示されると、安定した支援がなされるのではと思います。

○フローチャート等の作成により、関係機関の役割を明確にし、支援体制が可視化されるとよい。

○支援体制の向上のため、研修の継続

○HTLV-1の母子感染を予防するため、妊婦健診結果で把握した場合に適切な指導・支援することが必要であり、医療機関と保健機関の連携が必要

4 その他

○母の感染、疾病への不安については育児不安に対しての支援は地域の保健機関の役割だと思っています。専門医療機関と連携して支援を行うため、専門医療機関の情報を提供してもらいたいです。

○HTLV-1への理解があまりないのではないかと感じられる母に対して、専門医療機関（母自身の主治医）が不在の状況下で、理解を促す説明をしたとして、その不安をしっかりと受け止め続けられる自信が持ちきれないのが現状です。

○HTLV-1抗体検査の結果が主治医と妊婦の間にとどめられているのが現状であれば、相談支援は医療機関が主となって実施するのがよいと思います。市町村で相談時は対応しますが、専門の相談窓口については、各保健所で実施していただくのがよいと思います。

○妊婦自身の健康に関する相談やフォロー状況については、地域では把握しにくい場合もあるので、継続して医療機関で相談やフォローをしてほしい。

○HTLV-1陽性者を町内でフォローしていく際の基盤、連携が不十分である。保健従事者の知識の向上と、専門医療機関との連携が必要である。今後も研修や情報提供の場を設けていただきたい。

○HTLV-1抗体検査の結果は、市町村代表と医師会との話し合いの結果、実施の有無と実施日のみの記載と決められ、それに従い実施しているもの

○HTLV-1母子感染対策について地域・保健機関に求める役割とは何でしょうか。

○地域・保健機関での支援体制をつくられていくのであれば、医療機関から検査結果の詳細（検査値・異常の有無）について情報共有できる体制も検討していく必要がある

○乳児家庭全戸訪問にて、母がHTLV-1キャリアで、母乳栄養を選択肢し研究協力のために医療機関を受診しているときいた。保健師自身にHTLV-1の予防や実際の対応方法などの知識が乏しかったため、この調査により保健機関でも学ぶ機会が増えると良いと感じた。

○当保健所では現在のところ相談等はありませんが、相談があった場合を考えると相談先の明確化、相談体制の整備が必要だと思います。

○妊婦健診で実施しても結果は町には知らされないため実態が良くわかっていないのが現状です。

○HTLV-1の検査実施時期につきましては、国は妊娠10週以降から妊娠30週頃までの検査を薦